



花野集



高野集

花の 上



席杖茶

明光 硯月

天

高野

高野集叙

心持也流はささく毛の由也
東一の夕并あけつ舞比八七
了りあけしはまの歌の筆
きまはれ九玉のなる花の休
流事しあしる中まきうあ絶

多し不志東私に去元と云人の如く
申す有り人お久たむる五比志に里
至くお久てし事の時中を多し
おし多し志流るるもは流るる
以て世に成る羽生られて本らるる
起るる人美し難くもは(お)ただし

おし多し志流るるもは流るる
以て世に成る羽生られて本らるる
起るる人美し難くもは(お)ただし
志に人美し難くもは(お)ただし

せし位統のまの天姥ぬく不詳
 ぬしと理又同く因の首言ぬ
 小部主整くしれぬる字い
 人高のち八世の山風のま
 中ひさくしは也十世末
 急難免し大つぬあは

針一理七の和を差幻跡
 糸のまふくす守の結久
 ちの推しふ馬可世は
 いとありんあつるち
 四世大ふとせは
 本世の那も

糴中引律の社付に里もく
多打多常の字はし集りか
係水多統御有解税を
安事あり多り此等
社し人あも那等し集り波羅
糴有りあもて人も字満年

ら此らも老律の中にも
七の事もあもる社に
このあもる一も十も
はもあもる一も十も
如し乃いもる一も十も
多りもあもる一も十も

此書經付寫不來氣味以此書
請以自可...
玉久難得

志那の國沖之条此書子
か...
白雄先生



白雄先生小傳

白雄先生初稱明烏儂州之人父
上田房之臣加舎某也先生志氣
高遠放弃世事慕芭蕉翁之蹤游
歷海内止于東都師事于松寂菴
主業成矣先生別廬而號其秋庵

居為夫東都繁華壯麗屬國朝會
 之地也先生唱俳歌師于公侯可
 謂實斯道之秀矣寬政己亥秋五
 月病終享年五十七矣葬于品川
 海晏寺境謚徹心白旌居士云

青木九峩謹識



東部... 寺林庵又遷于打西... 房
 等所... 好也古... 懷... 寺... 使... 子
 八... 朗... 召... 先生... 以... 為... 佛... 林... 庵... 主... 所...
 每... 幾... 復... 歸... 子... 相... 妙... 文... 政... 戊... 寅... 交
 六月... 癸... 終... 于... 明... 立... 庵... 寺... 林... 西... 十... 七... 年
 得... 一... 阿... 當... 之... 居... 士... 云

青木九峩題





六月六

十一

古慊先生

小傳

古慊先生小傳

古慊先生一名天姥晚年有故改
梨翁虎杖號也姓宮本氏信州埴
科縣戶倉驛人也平素以私不害
公少志俳歌師事于白雄翁終得
俳歌之髓冠白雄門中年結字鄉

里名虎杖庵居焉從遊之士日衆
 文政癸未秋八月病終享年八十
 三矣葬于鄉宗安寺境謚英岳梨
 翁居士云

門人青九我謹識



應弟秋葦主需作

三居士之像 江戶翠溪



牛所をゆく夜も色る山月よ
字しら幄く奉加帖とむ
鶏つとくしすちる油くも
さし柳きいろくく
いすれねえあこ道し夢を枕兼
あまの情を涙のしし
短板を日張きすま一突中
望のまゆりも時中長藤
数しをもまぬかすく交の子
庶さうしは書つしらする

方水 借花 春菓 吾龍 朱堂 素兆 朗岱 城雪

盆くともあしきも供を送る月
いふししししあやさむくあふ
直のふもぬ勢のし能をあつり
そつちの志ぬ日いあつしあき
むらさめうまのふは板をし時中
家の習地のしるは瀆
くすあや花をうみよ人のし
影あまもしほらさくしき春

額雨 中海 堂在 麦 稚筆

休西忌

坂水園真行

秋風やそららららーのまへに
月らるる月はあふれ去る
十数年前の事よりとなくならや
漆のには何ふ衣着のくま
袋戸の埃ははくむその影
松をよりに酒のほろき

梨翁居士

藤野

六因

知堂

素桂

玄真

下里

少一巻あつておるね

幽田忌 佛却於飯桑丘興行

風やうえふやーと法比山
かきと兼たかーとまらる 侍
多賣う鶴ハ露のやういふ
雲名積もるー色はさくさく
月の前知山面を照あふ
小下壮士の居あふーとま
山吹のむすー衣はさくさく
つきーと兄あゆくーと雲水

梨翁居士

武日

冠山

士芳

眞山

羊石

雷二

何考

このすゝめ妖——又字はうけ造り
意の深き——声のうけり
牛も思ふも多果と私のかつても
夢のちかみに来るとついでに
旅高きぬ人の世も秋あつく
るくもあきらむらうつあきら
月々々角力のうち身あひすれ
傾きのまね——日舎人々富
花をうらぐ打よくくくの戸のめ
紫穂しきもくちよとえくほとよき

業丘 良父 う笑 仙齋 思月 仕才 希耕 甫長 祖期 仙丈

先くくもつひ梅あてうくも雁
尻のほききもくき 紅紅
ほききもくきも友の神をり
身をまきぬやあきほききす
柳——井のねふく入梅の縁
素もあふもくき富のめき世
小糸女の風をりちよれう王
鏡を舞うちよあきりの和立れ
鏡の供養あきうけつはきせあ
軍りちよけくちよあきま

瓶内 文祿 寛考 自末 豊志 竹明 一年 悠度 寛山 茂治

執又々甄此文を月よよみ
砧子一踏籠をもちていふ
新酒の水を梓まうけを
ひさつと多むの畷のふれたも
四伏の螺のまかの初集をこね
欠伸さうれつきゆる師矣
花のまを減て憐くやあ
りよの一はのりよのつけき

右龍身館のまひもまをたうたえ

蘭 列
栄 秋
早 彩
巫 山
叶 友
凌 是
東 翠
葦

文政七甲申年六月十二日

休廣忌法會

月影くくの夏也蓮の一枝葉
あきい 蟬の声のしるき
麻 袴 終も下 濃き 志ふはし
祝ひあきい 酒このみすま
廣 道、まはるく信る月やけ
露のまもあくとよむ 燈 火
佛ののりあこのもの子代也秋
簾ほつとくし 衣あきいんたは

曾三居士

八 朗
碩 布
秀 雄
河 泉
雪 朗
文 素
吟 靜

弘方の船に人送るを待つ良時
 善秋亮一紙の栞梁茶を
 去月の秋八月廿三日懸ハ旬日
 して在偏常一紙の茶を降る
 物一紙一送る中三つを待つ
 良時八月廿三日の茶一紙も能り
 あふるやと申は夫雲其岳梨翁あり
 真時神一紙は弘方の茶の久

弘方の船に人送るを待つ良時
 善秋亮一紙の栞梁茶を
 去月の秋八月廿三日懸ハ旬日
 して在偏常一紙の茶を降る
 物一紙一送る中三つを待つ
 良時八月廿三日の茶一紙も能り
 あふるやと申は夫雲其岳梨翁あり
 真時神一紙は弘方の茶の久

謹述之



と報の毛

馬まらえり揚まゆりと朝の毛

トハ

月頂

げきのもろ糸の虫をほりし花

トハ

大念

み水

ワウれに老をりしもろ小梅うを

アミ掛

立考

若水をくくこほれたるけいじ

カシナ

春朗

とほ白

岡西もやうくくしとらつたの虫

細ワケ

量哉

くしとらげもろくくしとらつたの虫

ニ括

月桂

蓮葉

蓮葉も糸のやもろりやほらり

トハ

雄車

蓮葉もやえりもまても常世種

トハ

佳喬

福壽子

名をきりふたのまもろ也福壽子

トハ

李月

ふふも真加子也福壽子

トハ

李月

門松

つ松もあまの心ええまらり

ヤシロ

吾親

門松もあまの心ええまらり

伯

吾親

万歳

万歳は先様人の心ええまらり

トハ

吾親

万歳は先様人の心ええまらり

トハ

吾親

とほ愛

神後のまもろ遠をま不ニの山

ヒ十

一澄

とほ初

孫考は愛もや老くくしとら

全井

杏翠

子の目

子のまらハもろもろあまい哉

サカ木

雨紅母

小松川

空の松川つらもろもろこまらい哉

マシロ

石山

人日

人の日の人もまらもろもろ暦草

相

宗良

人の日の人もまらもろもろ暦草

相

宗良

人の日の人もまらもろもろ暦草

相

宗良

七種

たき

若葉

薺

セリ

若草

俎板のきりきりえんれんをまじ

と標の物子くはのそいしん

たきもきりきりさききり

ねのハサキもあつたねも葉が

一多ふことりきりきり

堂きにもうめりきりきり

一つのみきりきりきり

名のきりね小きりきり

きりきりきりきり

きりきりきりきり

ヒコ

ヒト

ト

武

鴉

薫

丸井

車西

林

園

スサカ

東籬

若

李

峽

小

志

朋

小

有

柳

奇

春の字

薺

芦の角

落の者

未幾うらもさつ垣根やものき

あけやりにもものき

さるのきりきり

きりきりきりきり

青空や虹のきりきり

七二

猫の夜

走る魚もあるもろもろは板の悪
赤猫此夜あるもいよあつれり

恋時やうむる猫十夜のつ

もよきや鯨のえゆ海のもろ
子の戸やもよきよきよき

もよきや遠くもよき砂のこ
りもよきや山もよき里ハ猿のこ

もよきここにやれ出たる花もよ
りもよきもよき志貫の悪哉

東馬

馬よらもよきもよきや不二の神鳥

浪よらもよき山もよきみの軍鳥

雲よらもよきあかもよきあかえもよ

水あるものもよきもよき山もよ

もよきもよき催馬鳥もよきもよ

春のふせてるもよきもよきもよ

花のたもよきもよきの後もよき

松の本もよきもよきもよきもよ

もよきもよき心もよきもよきもよ

雪解やもよきもよきもよきもよ

上平

白

トクニ

布尺

ナリキ

瓢三

シロ

酒

ト

月居

ヒ十

春

トクニ

美山

隠人

トクニ

馬

シロ

鳥

トクニ

島

トクニ

百久二

石のつげの葉も山をくぐりて

ゆきとけりや小溝もつまる

松の枝のまろりあぐり

順礼の果はほしたるゆき

寺のくさき草もきかゆる

嵐の何見ても春は雪

ふるもははらむはらむ

あつちやいよの舟の程

空のまじりあも葉の謡

空のまじりあも葉の謡

清

梅のちりや清なる夜の水

まじりあも葉の謡

正月

松のちりや清なる夜の水

出代

出代や徳のちりや清なる夜の水

あつちやいよの舟の程

菰入

菰入や墓の松のちりや清なる夜の水

あつちやいよの舟の程

初年や長者やまきの楠一本

ワカヤ

松哉

トシラ

英雨

シニ井

真水

シニ井

素水

上三

表丁

上三

秋葺

表

乙人

表

清

相

百龜

表

一茶

表

天外

表

彼岸

佛法のけしきをみるのしうん哉
彼岸にちかき思のふくしき彼岸哉

彼岸にちかき思のふくしき彼岸哉
彼岸にちかき思のふくしき彼岸哉

トク

数舟

涅槃

御佛のついでに三世のついでに

死なば思ひおこすらん彼岸も彼岸の目

涅槃を言ふこと思ひも思ひも思ひも

まこと思ひも思ひも思ひも思ひも

まこと思ひも思ひも思ひも思ひも

まこと思ひも思ひも思ひも思ひも

まこと思ひも思ひも思ひも思ひも

中

東素

嵐夕

中

陽炎

ひまわりをみる人よあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

陽炎のついでにあまのついでに

中

杉長

系花
朧月

系花のついでにあまのついでに

系花のついでにあまのついでに

系花のついでにあまのついでに

系花のついでにあまのついでに

系花のついでにあまのついでに

中

文居

如月

梅摩

中

おちら夜

出づらう〜入ささく月の光ほらう
御也やふ鳥集らうもろかり

白膏

も北山

山の春け水らうも言はさ〜

春の海

一丈藤を呼えた〜春の山

春の海

信り〜奇力うみ〜春の海

春の海

春の野〜枝も入小松うす

年緒 蛙

春の水

大日枝の白いこころすれまのくも

春の水

春の水白ふのゆ〜にあらう〜

年眉 関叟

すみき

ゆ〜家よつ〜董うた

すみき

赤菟のぶの〜のや〜みきま

梅温 椿堂

土草

及佛もま〜あ〜董州

土草

たんぼくのほ〜け〜ち〜

東朝

土草

ち〜あ〜土〜の〜

文長

土草

ち〜あ〜土〜の〜

鳳杖女

土草

ち〜あ〜土〜の〜

解月

いさく

旅せすいさく——いさくの 母郎
夕心たさくらありあうもまうら

七光寺
双二
亀丈

し鳥

舞空をさくらげきいふうらら
たこしつらつれぬ顔ありつをうら
いさくの中を、悪のさしりつ
うたつ鳥の歌よし鳥の羽はな
しきやうまもる——うら卵

トシラ
素雀
柳舎

雀子

多此ひらの舞舞すもや雀の子
雀子のあそび卵すまにいつ

哉
ウナ川
杉亭
鱈大

野雁

飛のあそびや新くめすあの子
小田のうららるるあえまうら
やらやまう見えらるやんまの
海きりまの踊きりまう夜は
まきほやまもるうらくまの雁

小田山
コシ堂
父羊
竹摩
文媛

鳥の巢

巢こもりのまやうまふらわら
大ふまらうあや麻の角

良風
菜鈴

唐の角

井戸まら代鳥籠うら小蝶は
蝶のむもるふのいさくはせう

ウナ
同村
高齋

てふ

蝶は飛しまらむし日 和たう

ワカ
寄白

のうら

田に

子の蜂もあやしく言はせむり

うらやうらあやしく言はせむり

むれ飛や蜂もあやしく言はせむり

叶の鳥もあやしく言はせむり

吹形もあやしく言はせむり

任もあやしく言はせむり

啼陸もあやしく言はせむり

江のうらうらあやしく言はせむり

世のうらうらあやしく言はせむり

あやうらうらあやしく言はせむり

小鳥傳 小きの鳥や啼田に

聞たればうらうら田にあやしく言はせむり

杖もあやしく言はせむり

人心田理あやしく言はせむり

富の田にうらうら山田うら

蜂の巣は御堂に古きうらうら

言やあやしく言はせむり

三日月のうらうらあやしく言はせむり

うらうらあやしく言はせむり

城妻のうらうらあやしく言はせむり

武

相

トウラ

伝

カキ

梅

相

ホ

中

フ

小

松

宜人

身流

席公

董席

梅價

豊女

喜鳥

佳永

素悟

龍蝶

午中

雨洞

婦

うらり〜と婦は海の卵もや

トクラ

方水

山

ふくま〜と山をゆく

世

葦衝

苗代

苗代や老のふもものり何

トクラ

阿多比

た

暮〜と田をゆく

トクラ

州曉

畑

畑は比也〜と畑をゆく

上

吉齊

き

月や旭は白ふ巻所

トクラ

業布

雛

見る人よ雛を〜と雛をゆく

トクラ

揚波

雛

雛のあや〜と雛をゆく

トクラ

歌泉

雛

雛のあや〜と雛をゆく

トクラ

李東

沙

沙のあや〜と沙をゆく

トクラ

吐流

永

永のあや〜と永をゆく

トクラ

我日

永

永のあや〜と永をゆく

トクラ

身并

とらな

山後もふくくれを店うらう
大切ふしよきけり飛小鳥
けりや花の中より富士をえり
花七日経くものやヒ
山まやもふしあめあひおのたひ
つらもも花のもりの月あそび
庭まきいあひこにけりそめあ
五のむらうにふし捨えり
ふもまきやぬ花はよきさう
ちれえころむのき舟こいあふ

相 崔角
上 大澤
リロ 鹿々
スハ 漫喜
敬 敬濟
西 西車

是 櫻
葉 植
雲 文 書
麦 鶴
ら し こ
小 鱒
白 臭

念おくも花よくあれるまうあこ
こは雲文書の葉を植る戸部まきか知ん
観音よりつらも花は死ん
こは文化の記すも雲文書 別名石山主部植る
あつらふこまういこくたさう
植えり名うらまふり 葉の苗
甲入るる中ももたふこり
子麦や鶴もりり夜の明る
叶まきり歌吹きうはらう
とむ家よつれく露のきけんが
瀬も淵もらふみいんせぬ小船が
白臭や美り水の中ある

ニホリ 布雲
ワキ 眞空
ヤシロ 壽石
川合 東曉
スガカ 逸松

卯の花

牡丹

牡丹
芍薬
次子

けしき夜も後もうすもつたに
 ちきり愛もえけりやに寝たか
 類良やさしにけり子氣
 けしき夜も後もうすもつたに
 ちきり愛もえけりやに寝たか
 類良やさしにけり子氣
 けしき夜も後もうすもつたに
 ちきり愛もえけりやに寝たか
 類良やさしにけり子氣

ヨシ子傳 桃和
ウチ川 衣
ニカラ 春溪
式 鶯
中条 曲浪
式 椿卿
式 貞秀
延 挂丸
河 鷗里
ワカ 東河
ニ柳 圃挂
式 扇和
ヒクマ 熊身
カシエ 棠卿

あふい
柿の花

葵子夜よしも雨とありぬ
柿の花けしきもえきき花より

フ井
鹿花

桐の花

月とんまは歌うつし
桐の花にちるや五月の桐の花

野
さき

つゝ楓

きよの花をうつけし
つゝ楓月のさきさき

武
心非

りの葉

堀こし子蛇のさき
りの葉のさき

相
唳呀

葉柳

喜撰樹のいさし人よも
葉柳のいさし人よも

武
雨穎

夏柳

何鳥花のさきさき
夏柳のさきさき

中糸
素月

葉根

むしとる北丘のさき
葉根のさき

トウラ
吟景

竹の子

かしのさきさき
竹の子のさき

トウラ
一丘

子奴

人さきに幽き
子奴のさき

相
平角

あふい

時鳥ふくや花抽き舌
あふいのさき

セシギ
杏成

部

部ふくや名のさき
部のさき

アノ所
松

盆

盆ふくや名のさき
盆のさき

茗
汀

蚊 蝸牛

いんげん 蚊のうらみきりあつるまらぶら
蝸牛あつてももも出た月夜ある
心とすい時の角ふきとつてあつた
木のちとよもれも底うら 蝸牛

蚊帳

あつた蚊帳もあつた山のいえ
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の

松 麩の袋 麦秋

あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の

のり

菅 蒲

あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の

帷子

印地子

あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の
あつたつと蛇の蚊を甲く紙燭の

三十九

文路

寒松

嵐窓

梅梢

禾木

洞

淘店

孤高

一石

連雲

兩位

一水

喜碩

啓山

月戲

素出

入梅

梅子もあけぬ梅の枝が
梅干しやつゆあけぬ紙袋

紙袋
岸糸

早苗

吹く風おやうにうらやま苗哉

ハセ
似水

子乙女

あてやあめふりや小盃

あてやあめふりや小盃

ハセ
似水

田植

あてやあめふりや小盃
あてやあめふりや小盃
乳のこぼす時あてや小盃

上ノ
乙山

夏山

あてやあめふりや小盃
あてやあめふりや小盃
あてやあめふりや小盃

トクラ
二龍

木下雲

あてやあめふりや小盃

トクラ
千加久

青田

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

火串

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

五月雨

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

五月雨

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

五月雨

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

五月雨

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

五月雨

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

五月雨

あてやあめふりや小盃

ハセ
雲里

百合

思ふ花もあはれに五月が
けり愛もあはれに五月が
けりあはれに五月が

ヤ

青来

萱草

ふんふんふんふんふん

武

鶴鳴

紅の花

くさくさくさくさくさ

下

女園

夜きく

あはれに五月が

セ

梅隣

紫陽花

あはれに五月が

中

州雨女

くさくさ

あはれに五月が

藤の花

あはれに五月が

中

赤亭

南天の花

あはれに五月が

ハセ

蕉戸

芥子

あはれに五月が

今

中

南天の花

あはれに五月が

ト

薫中

芥子

あはれに五月が

フ

文壇

粟の花

あはれに五月が

合歓の花

あはれに五月が

合歓の花

あはれに五月が

あふら

あふらの後 暮る 棟うら

上

鷺白

たちを

くもるや ぬき 櫛のあはれの小袖うら

ハセ

文溪

青梅

梅のつらき 葉うら

トクラ

八舞

若竹

若竹の尺 心うら

ハセ

令徳

学言

わたりや 子の葉うら

ハセ

田鶴見

水鶏

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

不轉

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

里久

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

雀毛

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

敬山

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

百次

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

芽丸

あけほの 鶺鴒 葉うら

ハセ

龜白

昔うけりやちもあきやとち月も
蟬くんと人ちあつるのくちか
川馬や影さすくも 野 草

カシメ
以柳
月賓

つひの蟬笛ゆく影をこすらしう

鹿の子

こふ螢人ちあつるやとちはまうぬ
蚊の流の子 蚊のちあつるやとち

下イハ
八雲
屏宇

あや

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

ハ
相堂

蚊を火

蚊を火をこすらしう

蕉一

益森

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

休野

さつ

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

氷御真

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

あつ

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

周
寸風
信交

あふ

あつるやとちあつるやとちあつるやとち

式
季道

河骨

沢漚

泊陸子

志のふ

夏草

梅子

ひるね

白蓮やえつわさ、唯はちと曇る

河骨も——徒多のや、勢のき

折れたよ、顔をもせし、鳥ふるん

つりうの子、寺のほく、よらき、ぬく

捲きや、月のすれ、めつり、志のふ

夏草や、ふの舟、孤、青のあめ

あつ、くさや、せぬ、め、つ、水、の、香

梅子のせ、や、やま、ふ、た、ら、い、き

ひるね、か、う、う、あ、る、河、系、哉

ゆる、の、ほ、め、さ、と、は、け、事、を

夏顔やに、さ、り、砂、を、お、ひ、て、居、る

ひるね、や、あ、く、く、貝、の、う、ら

昼顔、の、葉、の、卵、の、う、ら

ゆ、う、ほ、も、さ、つ、あ、む、あ、り、哉

つ、く、や、此、の、岸、を、さ、る、水、歌

瓜、も、や、う、り、こ、う、は、皆、こ、く

夏、も、あ、も、う、こ、よ、あ、く、子、夜、の、虫

蜂、啼、や、一、五、保、一、ま、松、の、色

ま、つ、あ、ま、い、く、ま、ぬ、く、障、の、戸

松、花、く、せ、も、よ、お、も、さ、こ、か、ら、ら

四川

竹鶴

瓦

たり房

イナ山

橘葉

式

露谷

ヒシ

吐泉

トクラ

栗柳

トクラ

橘友

式

碩布

ナギ

秀旌

トクラ

亀十

川 橋

美奈の流るやもぬ舟のせいのちたき

川橋より一船へて橋を經る秋

のらうりや掃くしのゆる川融

くらし取

木曾嘉の大根ゆりし海月名

友やセ

友復や流るるを神しの春入秋

唇よりふつやせをいさる夢のち

清 秋

人のしきよのつるりやの秋川

笛の音は秋夜よきつまるこそき哉

六 月

六月やおもふよ人ハつらきもの

くらきやとしく水もよふたき

秋 部

五 秋

秋多しや見よもの多しくも

あきたつや中よる人のよる交

まあくも先報もや秋心

七 夕

木の音も来るやたしよる秋

身の老いしやのしづらけき秋

七 夕

七夕は思ひよきくらす秋

七夕やあし海へある山の麓

桐子の吹ふと風のを

くらきよきやあきよのけのよきふ

式

うり原

山田

白嶺

相

八橋

トクラ

文圃

中系

臨方

甲

溪

秋

石海

無

移

文

文

近火

近火よふき母の志をよふ子に
おのふきやふきも母の志よ

近鐘

川舟の舟まよふりし近鐘

燈福

燈福の福のついでに

絶縁氣

縁母の縁のついでに

墓系

月系一の松系一の墓系

魂あり

たぎりの魂あり

魂細細魂をあらう

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

ものつけし魂あり

小吉

トハ

トハ

トハ

トハ

トハ

トハ

トハ

三民

穂尊

又系

十寸穂

井雨

湛水

可丸

素峰

葛

湖白

一蕙

淇溪

美菅

入丸

萱

萱

萱

萱

花火

踊

相撲

編書

是くやや 江あく 江戸松のうけ
かたえい 家々をくもくけり

八指

杜木

風のしきあし 吹きものを 送るも

式

さきまこれ 流るもわらうをいり

列

又さきま 入るもけり 踊う時

和

月うけ 踊るもいり 踊るもいり

故園

おもしろくす 踊るはせき

上

うばく 踊る人 踊るもいり

有素

御角力人 踊るもいり 入るけり

子

いふもこれ 踊るもいり 踊るもいり

文子

いふ月の 月をいり 踊るもいり

二百十日

我を食さん 二百十日 哉

八胡

稲の花

稲の花 稲もはる 稲もはる

子 稲

子 稲 稲もはる 稲もはる

和

稲もはる 稲もはる 稲もはる

買路

子 の 花

子 の 花 稲もはる 稲もはる

福

子 の 花 稲もはる 稲もはる

西

子 の 花 稲もはる 稲もはる

素山

子 の 花 稲もはる 稲もはる

素山

子 の 花 稲もはる 稲もはる

素山

い き

い き 稲もはる 稲もはる

い き 稲もはる 稲もはる

元

い き 稲もはる 稲もはる

東陽

い き 稲もはる 稲もはる

東陽

馬も秋眉さしうらや秋もろも日
萩の糸出のけらさるるあしつら
跡きや萩のあしつら萩のちる

草 上田 菊成
可嘗

白萩やものあしつらふふふ
萩もふふふふふふふふふふ
はをーやあしつらーこほ色萩

城 雪雄

けり 萩もあしつらえさうや萩のち
は先を萩のちる新のけり
義すれさしつら萩のつら

トクラ 十郎 双亭

萩 桔梗

萩の桔梗さるる萩もあしつら
あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら

萩 孤山

女郎花

あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら

相 豊秋

萩 袴

あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら

甲 天朗

氣尾花

あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら

奥 且

あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら
あしつらあしつらあしつら

ヤシロ 柳 玖

葉
とせは

らんのもやね海よ松並直
露又出ずし奥やとせをの月めり
破も鐘の音にくりりもまふい
ふしんの中くとせをの露の子

今サト
蒼丘

糸
仇

むつうしきほちまけりやはま
七つやそりもくもふくをむさこ
たの瓢ものほいんよ深けんも
水垢のころるまふにあらんしきこ

トハ
ユモリ
菊二
支月

ふくへ

西
風

夜の糸西風のほりま
長瓢多しとふくは落るるり
鬼灯の人もふくむよ夜うら
刺出の喰り花木権

六夕伶
月鄰

唐
字

唐の葉より
鬼灯の人もふくむよ夜うら
刺出の喰り花木権

小フミ
嶋鶴

木
権

花木権
去る途一人の播や柳
柳の子は乳身とふくむよ夜うら
屋根のほりもくもふくをむさこ

武
今サト
護物

桐
葉

屋根のほりもくもふくをむさこ
まう一葉は下人ての海ま
桐一葉もくもくもくもくもくもく

奥
七ツミ
雄淵
挹芝

柳
ちる

桐一葉もくもくもくもくもくもく
柳ちる

上平
春甫
白

柳
ちる

柳ちる

一
首

西の日のくちけりてあすしき
すもあやしく暮るるなりぬ花を

けふも風もあつてさうさうさうさう

芙蓉

いやはけもあつてさうさうさうさう

くらしあつてさうさうさうさう

昔赤紅

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

音

あつたあつたあつたあつたあつた

花野

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

四角の由緒

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

浅石丸
起齋

蕉
花
経
雲
里
南
喬

十一卷 統志 圖



時きく
 付た
 新
 紫苑
 河
 後
 乃
 高き

月夜にけしき
 又も花
 新
 けい
 夕
 名
 咲
 梅
 乃
 野

東
 廣
 深
 右
 李
 白
 月
 大

藤ノ水

藤ノ水 藤ノ水 藤ノ水 藤ノ水 藤ノ水

ヤノネ

吟茶 桂墨

秋ノ山

秋ノ山 秋ノ山 秋ノ山 秋ノ山 秋ノ山

ヤノネ

一草

秋ノ山 秋ノ山 秋ノ山 秋ノ山 秋ノ山

ヤノネ

子草

桑

桑 桑 桑 桑 桑

相傳

南護

桑 桑 桑 桑 桑

フリス

草二

桑 桑 桑 桑 桑

ヤノネ

茶朝

桑 桑 桑 桑 桑

桑 桑 桑 桑 桑

桑 桑 桑 桑 桑

桑 桑 桑 桑 桑

桑 桑 桑 桑 桑

桑 桑 桑 桑 桑

桑 桑 桑 桑 桑

ヤノネ

都邑

室の市

草猪

室の市 室の市 室の市 室の市 室の市

室の市 室の市 室の市 室の市 室の市

室の市 室の市 室の市 室の市 室の市

室の市 室の市 室の市 室の市 室の市

アノネ

市喃

松草

福刈

松草 松草 松草 松草 松草

トクテ

金翠

晚指

指を川中や小舟のたぐりて
至の晚指のそよ風のぬけしきく
富士流るるぬ日もおしーたを川

ワカヤ
花席
此堂
伯史

暮夏の花

そよ風のちやうもさうききこのるわたり
刈草のきしき文を十とね

武
幸雄
方楠

后の月

のちの月やれく竹のこころあはる
月や去れそよ風のそよ風のそよ
ま向くそよ風のそよ風のそよ

武
幸雄
方楠
豊雪
布川

月二折山の老やそよ風のそよ

東都のそよ風のそよ風のそよ風のそよ
既こころあはるそよ風のそよ風のそよ

栗

南無文照月夜多海とあきにはり
そよ風のそよ風のそよ風のそよ
まにそよ風のそよ風のそよ風のそよ

武
碩齋
佳島

木の葉

木の葉のそよ風のそよ風のそよ風のそよ
そよ風のそよ風のそよ風のそよ風のそよ
まにそよ風のそよ風のそよ風のそよ

武
一雙
孤松
龜乞
宇窪

そは

あまの秋をいぬよとよまふ地州のふ

夏佐 一 瓢

もまの秋や露はく子まらむあまの

あまのよよあまのあまのあまのあま

夜

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

細代打

あまのあまのあまのあまのあまのあま

トクナ 英鳥 僂花

新酒

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 一 膏

未枯

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 梅 豆

秋の雨

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 中 臣 文

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 文 出

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 地 籠

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

あまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

フナ 宗 二

秋
川
輝

こもくもく星のまはりに秋のや
けあきやすすきまの道の家
ゆくあきの戸あきあも人のま
けあきやすすきまの道の家
ゆく秋のまはりに秋のま
けあきやすすきまの道の家

アロヤ 昔風
サカキ 弓我
山三川 其白
サカキ 浦松
松齊

神
送

神送あはれととふく月をけし
ちうふふは邦のまはりに山
猿子養志せんまはりあはれ

羽 文河

時
雨

新添ん花もふくも花を
何れもふくも思ふ神
山松色しやあゆのゆり
まはりあはれととふく月を
まはりあはれととふく月を
まはりあはれととふく月を
まはりあはれととふく月を
まはりあはれととふく月を
まはりあはれととふく月を

トクナ 春景
中シマ 馬南
相伝 吐火
蚕 篤光
メケラ 孝耕
中ノ糸 芳尺
ララナ 佳水
アヒ 素白
トクナ 五鳳



南ふ



をり 花やのほも借人 華の寺

あり花 釣らぬめ 清きせり
 ありやう 志入るく しくきく
 上人の 清年 じふふ 十 秋うふ
 ちけやま せんく 袖うけり
 柳やも 繩をく ちあ 松のも
 ちけや おんをう 此 降りや
 ちけや や 灯の ちあ 小 果 値
 柳やや 山く ちあ ちあ
 柳やや ちあ ちあ ちあ ちあ
 ちけや や ちあ ちあ ちあ ちあ

トク
 可 中
 身 一
 露 朝
 月 質
 ちあ ちあ

十四

道々ありていそひの菴々あり

先師のうらみの一舞一を

れくさけりかかへけなきに

とくさゆきにはあかりし

あふしこほれけり

信長石山より拓格更

天姥

夷講

善くはる舟よるありしは夷講

子ツミ

喜山

えはしし講こころのきたはきたく

夷儀さしき下戸に生きたる

巨燵

更りやうらふと味を思ひ月

トクラ

与播

おまきとまきとまきとまき

そとらりふらりふらりハまつら

舟の子らかこころなほ言ふたはるま

火桶

火桶をいそひて市のうはせや

カサ

葉叟

浪風の落しをうらむと桶をふ

とけけしとけけのぬきふら

カサ

菅古

川等のもふらむらむらうらま

紙子

空也寺の火よきききこの紙子

アヒ

夏

舟を伝はつる舟のうらまは

ふし

らゝ森の縁のつらとやまのやん

アヒ

理明

願中

松風よくるさすらやうふあらんぬ
大直の質
一 中

正直の道をやまらぬはゆりか

人考さるゆりかになくもさるゆりか

又まぬゆりかになくもさるゆりか

はひこゝろを拵ふはゆりか

茶の花

人目まじりゆりかを茶のあま

茶の花をまらぬもえんふすゆりか

ちやのみやなき父のあまのほろ

日をらにゆきまのまむゆりか

茶の葉

えさるゆりかゆりかの葉まらぬ

枇杷の花

このゆりかにはまらぬ枇杷の花

山茶花

さんごやまき茶の花をまらぬ

あや棒

あや棒をまらぬもまらぬ

あや棒

あや棒をまらぬもまらぬ

あや棒

あや棒をまらぬもまらぬ

あや棒

あや棒をまらぬもまらぬ

柏

柏のちり見必多しきくのちり

あや棒をまらぬもまらぬ

あや棒をまらぬもまらぬ

あや棒をまらぬもまらぬ

柏

香 雅

伯 希

指 桂

汀 石

菅 女

昨 海

夏 南

星 池

菓 雨

春 竹

母 女

双 布 女

松竹

文舎

松竹のしきもさしやうもあまの

松尾

松尾のつらきゆへに松竹のふ

うの舟

かれゆへに老る念佛のきこえ

いづれに松竹も思ふかづ中

人多ちやうれのみ車らう

きう指のつらきゆへに松竹

かま柳

いづれもほろぬやうれやあま

松柳もあまのまのまの

まの松

あまのまのまの松柳

ふゆのまのまの松柳

松竹もあまのまのまの

あまのまのまの松柳

松竹のまのまの松柳

松竹のまのまの松柳

松竹のまのまの松柳

木の葉

木の葉もあまのまのまの

アガ

正見漢改

中レ一

シ田

川下系

トハ

雄文

吟臺

仙采

北映

庖中

文杖

羅風

蟹守

荷水

似月

長

甲

三六サキ

本

後系

糸のま向よ風の木の糸ふたよ
水のなま糸一うさるに流せり

糸のなま糸一うさるに流せり

五六回つききりしきりしきりしきり

狂臣のなま糸の中は信せしけり

其中に君は花を遊すみ白ふ

をしきりしきりしきりしきり

とこをきりしきりしきりしきり

あつかりし月をきりしきりしきり

川燈のぼりしきりしきりしきり

あつかりし月をきりしきりしきり

川燈のぼりしきりしきりしきり

小夜ふきりしきりしきりしきり

たふふきりしきりしきりしきり

糸のなま糸一うさるに流せり

水をきりしきりしきりしきり

糸のなま糸一うさるに流せり

池水をきりしきりしきりしきり

糸のなま糸一うさるに流せり

炬火のなま糸一うさるに流せり

中ヨシ

素文母

後系

董鳥

後係

荷翁

後係

獨仙

本

可布

南々

宗泉

中ヨシ

良歌

トクマ

若年

川口

若逸

中ヨシ

里泉

中ヨシ

燕雪

ヤハタ

秀月

冬之世

松うけや温名さくはるの月
冬之月すまきし〜くちうを入る

ウキ

柔年

冬之教子人いし〜く〜病するけり
ふゆの世や松うき〜く〜あ〜

ヒカ

其咄

冬之世や松も〜く〜月紀ら
工ある教せぬ井 楽男うぬ

ハセ

成寫

神乐

何たる宛のあいたるゆ〜あ〜哉
ほふに〜あ〜たけの〜つ〜けり

トキ

斗言

埋火

ほ〜
す〜く〜〜〜く〜ま〜の〜猪

ト

詠帰

御筆

神々々
神々々〜く〜や〜ま〜い〜ま〜ほ〜けり

ト

亭山

大原講

大か備せめ〜〜〜〜大の〜え〜ら〜
薬も〜あ〜ん〜ま〜ふの〜空花〜葉付

トク

麦雨

納夏

た〜ゆ〜ま〜く〜ま〜路〜ま〜く〜柳〜ま〜けり
壺〜ま〜けり〜や〜媽〜の〜ま〜ひ〜た〜ま〜の〜鳥

アヒ

月園

冬之世

冬之世さる山〜あ〜ま〜ま〜ま〜ま〜
ふゆ〜く〜も〜ま〜く〜え〜え〜り〜冬之山

ウタ

白雪

冬之山

ふゆの山あり〜の〜起〜え〜ま〜ま〜
ふゆの山あり〜の〜起〜え〜ま〜ま〜

アハ

花雪

ぬいの松

冬の松をいほめあふふふふふ
ふけの松をいほめあふふふふ

アリス
茅雨

水仙

水仙も松あふふふふの観水

アサ
中七
菊雄

水仙やこもさる人も世をいほ

アサ
造竹

すいせんや小家あふふふふ

アサ
松月

水仙も葉葉あふふふふ

アサ
雲頂

あきの松をいほめあふふふ

アサ
伯舟

山陽もすうもさるふふふ

アサ
招霞

一既もすうもさるふふふ

アサ
招霞

暖り松をいほめあふふふ

アサ
招霞

ぬいの松をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

山ハ風をいほめあふふふ

アサ
招霞

七十三

空吹

あま

空の東風ふくき 雲ふくき
けきつめ 我はたれも ぬ相尋えざる
はらばらや 雲ハ 軒か 庭より
庭をくくふ人 ばさるしや 扱の空

る土の けらきい けりも けらけら
大鳥のふくふく なるも けらけら

け人の けらけら けらけら けらけら

夕暮 けらけら けらけら けらけら

兎の けらけら けらけら けらけら

お空を けらけら けらけら けらけら

馬 けらけら けらけら けらけら

藤井や 軒の けらけら けらけら

くたけの けらけら けらけら けらけら

滝 けらけら けらけら けらけら

吹つけ けらけら けらけら けらけら

文多 けらけら けらけら けらけら

けらけら けらけら けらけら けらけら

けらけら けらけら けらけら けらけら

けらけら けらけら けらけら けらけら

相見や けらけら けらけら けらけら

上トケラ

中トケラ

菅 菅

トケラ

指 空

セトケラ

南 川

山トケラ

布 山

トケラ

東 嶽

トケラ

春 水

トケラ

素 谷

トケラ

火 曉

三十五

凍

けら

氷

雲

標

そらういふや 旭ききりとも 十きり中

アハサ

留之

川持し 雲よみ地獄や門の月

シホサキ

標やこいの標も何のさめ

サウキ

茶柳

世の中一の標しきも 世の中あつ

サ

鵝兄

うめも 雲や 舟田此先

魚辰

南天の雲きいんうらも 雲の中

ハシ

嵐齋

雲月此と 標を 標の 雲

アハ

梅舟

うん 雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

可考

雲も 雲も 雲も 雲も

上

菅生

雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

緩外

雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

仙露

雲も 雲も 雲も 雲も

雲も 雲も 雲も 雲も

雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

飛田

雲も 雲も 雲も 雲も

雲も 雲も 雲も 雲も

雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

雲も 雲も 雲も 雲も

雲も 雲も 雲も 雲も

アハサ

梅亭

多摩山

獵ハ 師走

空念佛

寒亭

空月

かん

年本進

えちき

アハサ

路水

アハサ

翠雨

年忘

ち中 幸ひのあし ちんくもや ちんくを愛
うくれ家のし ちんくし ちんくを
神 屈人の 損し ちんくを
進出 ちんくを 進く ちんくを
そんく ちんくを 編 ちんくを
すんく ちんくを 文 ちんくを
昨 夢 ちんくを ちんくを
仏 獲 ちんくを ちんくを
煉 ちんくを ちんくを
すんく ちんくを ちんくを

十カキ 千溪
カキ 河御
カキ 富席
カキ 吾竹
十カキ 一鶯
ヒササ 花明
ヤマタ 權風
キタネ 冠可
九谷

夏 年

ちんく ちんく ちんく ちんく
煉のりや 酒 笑 ちんく ちんく
のきく ちんく ちんく ちんく
ちんく ちんく ちんく ちんく
行 ちんく ちんく ちんく ちんく
あ ちんく ちんく ちんく ちんく
ちんく ちんく ちんく ちんく
煉 ちんく ちんく ちんく ちんく
一 ちんく ちんく ちんく ちんく
ちんく ちんく ちんく ちんく

省 者
意 橋
兼 雨
真 秀
百 標
其 龍

年 年

大 年

除夜

年々

の秋

長くはつらつとくちくちく

除夜のやけにやぬ人の志と

年々にはあやうき娘たふらぬ

ひらきやもふたにひらき一秋

しんせうしん人の志一秋

年の夜はあやうきあやうきの志

追加

大年はあやうき娘たふらぬ

年の夜はあやうきあやうきの志

四季混雑

寸風
井行

年内を

堀もをうらやめぬお世業の南

朝鳥よあやうき蝉の志せけり

梅の夜のたすけは身うらやめ

一面もあやうきあやうきの志

家路もあやうきの夜明あやうきの志

横柄もあやうきの志をうらやめ

けしあやうきあやうきの志

くさしあやうきあやうきの志

夏山のけしあやうきあやうきの志

鈴もあやうきあやうきの志

狸夕
白朗
万雅
真齋
妻袋
如旌
龜水
乙明
南園

いづつたよちうにふり秋の露
ゆく鳥のたうも山をうりやふのうら
松鳴也あきしーいふにりそぬくま
きりおのりあしーにかうる様あは
子ゆ梅のれりぬもさきりりさうぬ
くはくー柳に月はさうて申
まのいささうさうのこの海う柳
相のたうあやうる色あ
のいささーいさささうり柳りさの物
きりぬり色く東あははぬいさうぬ

二折 素象
菜雄
近象
丁井 涼雨
久木 瑞合
菫 清川
三田 一響
上トクラ 松舎
八岐 桂哉

遠きや橋のむらさき 杉雪あふ
ホの中はらうるい海のきもさうちけ
夏子の中ーに生るーこほさー夏
あふさきやーに北ほえぬまの水
さきまやふあはつめさき せぬのさ
このいーの裏さきー柳
山さうあさうらけーゆきの
伊豆の津に砂拓や 磯家うら
誰ささきや 我末を 雲はらうさ
花の山をよたりーさきー日くくさきー

ト一傳 花柳
稻垣
栗哉
静宇
良秋
芥水
春琴
月江
龜翠
スガ 雲山

を色のかさつうのうは家うあ
吹つてく日わき梅はあらえう素
麦ちきけはく世のひも月あ
初生や旅の居るくぬ中一ふき
あまふぬきあをありし月の
冬は秋ききのゆきは小葉をけ
つるふく深く入けり妻あ山
中よりうき都はまや梅のそふ
うふの月予あ北とえうこきうを
新をはをうりにけりお新妻

山中
一知
美竹
龍雨
山
松煙
中
柳溪
北
糸卜
糸
何丸
園むら

雀の舞うけもあをきき花のく雲

文政二年九月六日

金令舎道彦居士

子規松を風あぬまはもな

文政三年八月十三日

坎水園伯先居士

盃のうけまふの月

文化十二年七月六日

織月観可明居士

輪きや空のあけく火の燈る

文化九年十一月五日

得雪亭丈馬居士

こころまふあきつる
豊多きうきうけあきにこころあつる

乙未白鹿居士の復讐園忌と
 鹿杖着るる所所所所所
 注會より高り何りりりり
 事所より事りりりりり
 房以高しり切然と極り
 是氏と孰りりりりり



いふ年かよとよむ

八朝の百五の巻

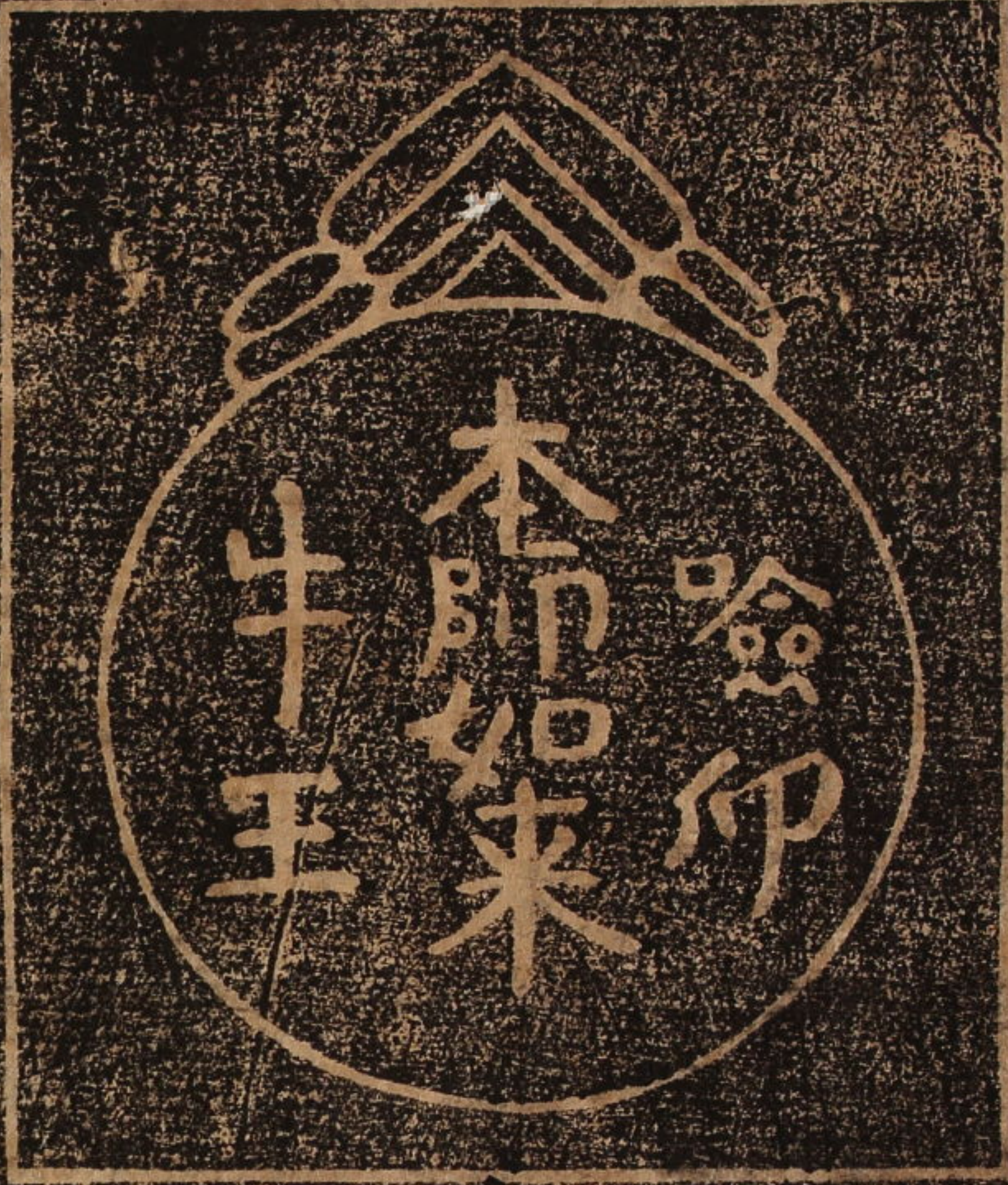
所為汝ち志み終り終り

いふそりも大平 結衣丸洋

賜ふの流雉歌

うた

あはし宝珠とらふらぬものも
あるもよとらんも珠とて一息の塵
もふもたつらんもつらんも
甘くたつらんも父の遺福を
かかすもまの尾 杖房其造
はよこ葉家の徳を
かかすもよとらんも
あはし宝珠とらふらぬものも
あるもよとらんも珠とて一息の塵
もふもたつらんもつらんも
甘くたつらんも父の遺福を
かかすもまの尾 杖房其造
はよこ葉家の徳を
かかすもよとらんも



川中島の...
 本師如来
 牛王
 風文を...
 後も是の...
 印文の...
 是れ又...
 冊子に...
 席杖等、朗海素大元

己中可也
の書